

2025年11月2日(第1主日)

第一礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師

プレイスリード: 郭永東牧師

前奏
頌栄

540

主の祈り

プレイズ

「収穫の時」「恵み」

聖書朗読

ヨハネの黙示録 2:12~17

祈禱

(新約聖書 p 454)

賛美

讃美歌 6

メッセージ

「私の名をしっかりと
保って」

祈禱

賛美

讃美歌 136

聖餐式

献金

報告

頌栄

新生 672b

祝禱

会衆

会衆

会衆

司会

司会

会衆

牧師

牧師

会衆

司会

会衆

牧師



第二礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師

司会: 伊禮信義先生

聖書: 列王記下 2:1~11 (旧約聖書 P.577)

メッセージ: 「エリヤとエリシャ」

プレイズ: 「収穫の時」「恵み」

賛美: 新生 26 新生 278



ファミリー礼拝

メッセージ: 渡真利彦文牧師

聖書: 使徒 16:25~34

メッセージ: 「ピリピでの伝道」

<巻頭言>

「記事を読んで」

牧師 渡真利彦文

『1949年6月、昭和天皇は九州巡業の途次、大分県別府市にある戦災孤児救済を行っていた小百合愛児園を慰問のため訪れた。同園はカトリックの修道院が経営する施設で筆者の家がすぐそばにあったので、昭和天皇を間近でお迎えした。その後事件は起こった。

慰問を終えた天皇が帰途に就こうとされた時、イタリア人の修道院長が天皇にロザリオを贈呈し礼拝堂に招き入れた。天皇はつかつかと祭壇に向かって歩を進め、祭壇に向かい拝礼をしようとしたその時、お付きの者があわててそれを止めたのだ。

翌朝、地元紙はこの「事件」を別府事件として報道した。戦時中は神として君臨した天皇が、敵国の宗教に屈服するなどありえない。だが昭和天皇の心中にはキリスト教に対する畏敬の念があられたようで、皇太子の家庭教師には「女性のクリスチャン」と自ら要望を出され、クエーカーのヴァイニング夫人が選ばれた。』

上記の別府事件は、2025年10月19日のクリスチャン新聞「落ち穂」の記事です。読んで心に語られたことを書いてみます。

「孝行したいときに親は無し」と言われます。親に限らず何事でも、あまりに身近にありすぎるものは、いつの間にか在って当然のことになってしまい、実は許されてそこに存在するのだということが意識されなくなってしまうものです。それを失って初めて、「実はあれは許されて私の所にあったのだ」と知るのです。人間の愚かさです。昭和天皇も敗戦を通して神として君臨していたことを失うことによって、より大きな存在そして人間の真の姿を知るきっかけになったのではないのでしょうか。